

今月の PICK UP



『日本人の愛したお菓子たち』 吉田 菊次郎／著 講談社 383.8

チョコレート、キャラメル、アイスクリームにおせんべい。日本人の愛したお菓子といえば、何を思い浮かべますか。遠足のお楽しみ、お手伝いのご褒美、疲れた心や体への癒しなど、お菓子は私たちの生活に、楽しみと安らぎを与え続けてきました。そして、お菓子とともに、いろいろな思い出を心に刻んできた方も多いことでしょう。この本では、お菓子作りのプロである著者が、社会情勢や生活様式を反映したお菓子の誕生秘話をまじえながら、明治から現代までのお馴染みのお菓子を紹介しています。さあ、日本人が愛したお菓子たちの歴史をたどってみましょう。

『左京区七夕通東入ル』 瀧羽 麻子／著 小学館 913.6



七夕の夜、大学生の花に訪れた運命の出会い。偶然行った合コンで出会ったのは、同じ大学に通う数学科の龍彦。独特の雰囲気をもつ彼に、花はどんどん惹かれていきます。しかし、「数学にとりつかれた」と形容されるほど夢中で数学に取り組む龍彦に、花は壁を感じてしまいます。京都を舞台に描かれるこの物語は、友人も交えての花火や学園祭、卒業旅行と青春満載で、花の苦悩する姿さえもきらめいて見える甘酸っぱいラブストーリーです。

司書の おすすめ



『お菓子の箱だけで作るすごい空箱工作』 はるきる／著 ワニブックス 754.9

本書は、空箱職人の著者が、お菓子やアイスクリームの空箱で作った建物や動物、ロボットなどの作品を紹介しています。どの作品もクオリティーの高さはもちろん、パッケージのイラストやロゴの生かし方など著者のアイデアに驚くばかりです。

初心者向けの作品の作り方が型紙付きで紹介されているので、一人でまた家族や友人とわいわい言いながら作ってみても楽しいと思います。



『おばあちゃんは猫でテーブルを拭きながら言った 世界ことわざ紀行』

金井 真紀／著 岩波書店 388.8



語学力ゼロ、ことわざの専門知識なし、ただし聞きかじりと受け売りは大得意。そんな著者が集めて回った36言語のことわざが、かわいらしいイラストと文字とともに紹介されています。

長い年月を生き延びてきた言語は、それぞれに様々なドラマを抱えています。ことわざの向こうに見え隠れする、それぞれの言語や文字の歴史に触れてみませんか。

『ラジオ深夜便 うたう生物学』 本川 達雄／著

集英社インターナショナル 460.4

ヒトデはなぜ星形をしているの？ カタツムリの殻はなぜうずまき形なの？ 五弁花が多いのはなぜ？ などなど。生き物に関する身近なテーマでまとめた 30 話から成っています。

NHK のラジオ番組「ラジオ深夜便」に著者が出演した 15 分のコーナーを本にしたもので、語りかけられているようなやさしい文章は、どの章からでも気軽に読むことができます。

